

# 魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:春見明子 所属:岐阜県立岐阜盲学校 記録日: 28年 2月 1日

キーワード: 「視覚障がい」「社会生活」「自助具の活用」

## 【対象児の情報】

○学年 高等部 1年生 男子 A

○障害名 視覚障害 レーバー先天盲 弱視 右)0.03 左) 0.03 両) 0.04 最小可読文字 14P/2cm 色盲

○障害と困難の内容

- ・ひとりで取り組むことに関しては、難しさを感じる事が多く、消極的である。
- ・パソコン検定に挑戦したいが、問題文を拡大コピーしただけでは、時間内に問題文の内容を把握することが難しい。
- ・偏心固視があり、紙面を目に近づけて網膜周辺で対象物を見る。対象物の全体像や長文の文書を把握するのに時間がかかる。

## 【活動目的】

○当初のねらい

- ・進路実現に向けて、自助具を活用することで新しいことにチャレンジする前向きな気持ちを育てる。
- ・場面に応じて自助具を使い分け、活用していこうとする気持ちを育てる。

○実施期間 平成27年4月15日～平成28年1月29日

○実施者 採択者

○実施者と対象生徒の関係 自立活動の授業担当

## 【活動内容と対象児の変化】

<対象生徒の事前の状況>

○学校生活の状況について

対象生徒 A は、部活や運動会の応援団など、仲間と一緒に活動することには積極的である。しかし、一人で行うことに関しては、「何かをやってみたい」という姿はあまり見られない。「ちょっと無理ですね…」とすぐ口にするなど、「難しそうだ」と感じたことを避けてしまい、受け身になりがちである。また、将来パソコン関係の仕事に就きたいという気持ちをもっているが、進路に対して具体的な目標はまだ決まっていない。

○普段の機器の利用について

A はパソコンや iPad に憧れをもっており、現在自助具は iPad のみを使用している。普段から iPad をツールとして電子教科書を使用したり、板書を撮影したりするなど、iPad の基本的な操作ができるが、主に使うアプリは写真、メール、ワードで、使用用途も限られている。パソコンを使うことに憧れがあり、パソコンを利用してノートテイクをやりたいという希望をもっているが、現時点では、ノートに鉛筆で書いた方が、学習の定着も良いと思われた。また、パソコン検定に挑戦したいと2年前から思っており、相談に来たことがあった。しかし、800字近くの長文を読みながらパソコンに入力していくことが難しく、「ちょっと無理ですね…」と諦めていた。しかし、進路決定の時期に向かって、「パソコンが活用できる」ことは進路選択の幅を広げることにつながると考えた。

○アナログの自助具使用について

また、A は小さい頃から使っていたルーペや単眼鏡については現在は、ほぼ使っていないということがわかった。「パソコンと iPad が使えれば良い」というような発言が度々あり、「ルーペや単眼鏡は今どこにあるの?」と聞くと、「単眼鏡は寄宿舍にあったと思うけど…。ルーペはどこへ行ったかな。電池も切れちゃったし、も

う1年以上見ていない」と言い、特に必要性を感じていない様子だった。

### <活動の具体的内容>





自信をもって自分のやりたいことに挑戦できるために、彼が「できた！もう少し頑張ってみようかな。」と思えるような活動を行いたいと考えた。そこで、

- (1) 諦めないで挑戦する。
- (2) スキルを向上させて目標を達成する。

という2点において目標と活動内容を考えた。しかし、校外で活動する場面を想定すると、デジタルの自助具だけでなくアナログの自助具も便利に使いこなしていくことが今後大切になってくると考える。いくつかの自助具を使える選択肢の多さに希望を感じ、今後の進路学習につなげていってほしいと考えた。そこで、さらに、

- (3) 場面や状況に応じて、自助具を選択して使うことができる。

も、本研究の中で目指していきたいと考え、以下の3つの活動を設定することにした。

目的	活動と内容
(1) 彼がワープロ検定で合格するためには何をクリアしないといけないか、具体的に考えることができるようにする。	<p>○パソコン検定の計画を立てる。(学期のはじめに行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして検定に挑戦するのか、いつまでに何をやれば目標が実現できるのか考える。</li> <li>・iPad アプリの「カレンダー」の利用法を覚えて、パソコン検定までにすることを、期限を区切って考える。</li> </ul> 
(2) 自らやり遂げる体験をすることで自分に自信を持ち、進路選択につなげる。	<p>○パソコン検定に向けて、タイピングや文書作成の練習をする。(年間を通して行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タッチタイピングやショートカットキーの使用など、基本的な操作と公式文書作成の知識を身に付ける。</li> <li>・iPad を自助具として使い、見づらい部分をカバーすることで、自信をもって取り組む。</li> <li>①問題文をカメラで撮影して拡大して把握する。</li> <li>②問題文をPDF化したものをVoiceDreamReaderで1行ずつ表示させて読んだり聞いたりして把握する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  カメラ         </div> <div style="text-align: center;">  写真         </div> <div style="text-align: center;">  VoiceDreamReader         </div> </div>
(3) 自分の自助具を見直す。(年間2回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設を利用する体験をすることで、場面に応じた自助具の使い分けができる。</li> <li>・普段どんな自助具を用意しておけば良いか考える。</li> <li>・いくつかの自助具の利点を確認して、これから自助具をどのように使っていけば良いかを考える。</li> </ul>

### <対象生徒の事後の変化>

#### (1) パソコン検定の計画について

「3級合格までにやらなければいけないこと」「いつまでにやるか」をiPadのカレンダーを利用しながら、自分で計画を立てて、自分で確認することができるようにした。Aは、「キーボードを見ずに打てるようにする」

「ホームポジションを覚える」「問題集を利用する」「音声も利用して打つ速度を上げる」など、合格のためにクリアしなければいけないことを自分で考えた。

普段からスケジュール機能を使う習慣はなく、教師が言葉がけをしないと見直すことは難しかったが、検定までに何をすればいいか考える機会になった。例えば、カレンダーを読み直し、「10月までに300字入力できるようになる」を見据えて辛抱強く取り組む姿が見られた。自主的に取り組む姿勢ができてきて、それまではあまり積極的でなかったタイピングの宿題にも自分から取り組んでくるようになった。



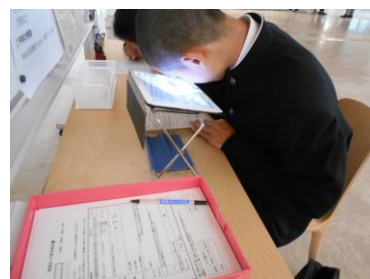
iPadで問題文を読みながら検定の練習に取り組む様子

## (2) パソコン検定の取組について

パソコン検定に挑戦するためには、彼が問題文を正しく把握できるようにする必要があった。問題を読むためのツールとしてiPadの拡大、読み上げ機能などを使って問題文を把握することにした。問題文は、最初は紙媒体の問題をカメラで撮影して、写真アプリで見ると、文章中にマス開けする箇所や、均等割り付けをする箇所など、拡大して細部を確認したり、縮小して全体を把握したりすることが可能になった。Aは「(紙の拡大だと)見失う部分が多い。でも、これならすぐに探せる!」と嬉しそうであった。

その後、音声も活用していきたいと考え、問題文を、VoiceDreamReaderを使用して読むようにした。すると、問題文の把握が速くなり、規定時間内に解答をつくり上げることができるようになった。

このようにしてiPadをツールとして検定に取り組み、約2か月でワープロ検定4級に合格、12月には3級に合格した。Aは4級が合格した直後に「次は3級を受ける」と言い、また「エクセルもやりたい」と言ってくるなどして練習を続け、現在はエクセルの操作方法を学習している。また、今までは「タッチタイピングを覚えようよ」と言っても「ちょっと無理ですね…」と言うなど、なかなか新しいことを受け入れられなかったが、タッチタイピングの練習をしたり、「今後のために音声(パソコン)も使ってみようかな」言ったりするなど、新しいスキルを積極的に身に付けようとする発言もでてきた。



iPadで拡大しながら利用登録票をひとりで書く様子

## (3) 身の回りの自助具を見直す取組について

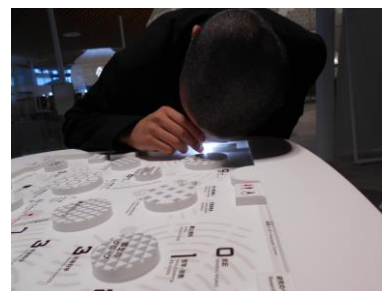
実際に公共施設である岐阜市立図書館に行き、利用登録票を書き、図書カードを作る体験をしてみることにした。その際、

- ・自分で必要だと思うものを用意して持っていく。
- ・自分の力で申し込み用紙に必要事項を記入する。

の2点を行ってほしいとAに伝えた。

活動の内容について話すと、当日は、普段は使っていないiPadのスタンド(iPadを拡大読書器のように使うため)やルーペと単眼鏡を持参してきた。不安そうに教師の方を振り返る時もあったが、登録票を書くときにはiPadとスタンドを使い、読みづらさをカバーしながら登録票を書ききった。また、館内地図を読むときにはルーペを利用して、館内を散策することができた。

事後学習の中では、Aは自分から単眼鏡を出して板書を読み、手書きで感想を書いた。その中には、「どうということが要求されるかを予測し、対処する方法を見つけ出す必要がある」「文字が小さくても、読んだり書いたりできる方法はたくさんあるので、自分に合ったものを使用する」と書かれていた。



ルーペを利用して館内地図を見ている様子

自分には選択肢があることをAが再確認できた瞬間であったと思われる。さらには、「(次は)トイカを自分で発行したい」と、次にやりたいことも書かれていた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### <主観的気づき>

- (1) スケジュール機能を利用することは、Aが目標達成までに何をすれば良いかを考えるためのきっかけになった。
- (2) パソコン検定合格により「できた!」という達成感を味わうことで、自信がついてきた。
- (3) 自分の使える自助具を見直したことは、Aが場面に応じて、自助具を使い分けられる力につながった。

#### <エビデンス>

- (1) カレンダーを読み直すことは、諦めないで、目標達成に向かって取り組む姿が見られた。  
2年生からは、進路学習についてもより内容が深まってくる。今回のように、「やりたい!」と決めたことを実現できるように、具体的な計画を立てて、挑戦して行ってほしい。
- (2) 「次は〇〇をやってみようかな」という言葉が聞かれるようになってきた。  
視覚的な不利を軽減することで、今まで挑戦できなかったことに挑戦でき、その結果スキルも向上した。さらに活用できるようにして、ノートづくりや掲示物作成など、普段の学習活動でも生かしていけるようにしたい。
- (3) 事後学習のノートより、Aは校舎内ではルーペや単眼鏡の必要性を感じず、あえて使っていなかったことが分かった。また、デジタル、アナログにこだわることなく、場面に応じて最適な自助具を使って読んだり書いたりしていける力にも気づいたことがわかった。「自分には選択できる可能性がある」ということに希望をもち、今後の進路実現につなげていけるようにしたい。

#### <その他のエピソード>

12月に入って、Aは県内の高校生が集まるMSリーダーズの交通安全教室に、本校の代表として参加した。その時にも、バスに乗るときに単眼鏡を使ったり、他校の生徒達と一緒に講習会を受けるときにルーペを使ったりしていたと聞いた。後日、「ルーペや単眼鏡使ったんだってね」と、本人に言うと、「別に。講習会があるって聞いたから『いるな』と思って持っていっただけ。」と、照れながら答えてくれた。1年前は、自分のルーペをどこに置いたか忘れてしまっていたAが、必要に応じてルーペを携帯して、他校の高校生達と一緒に講習会を受けることができた。また、3学期に入ってからも、総合的な学習の時間の様子を見たが、教室内で、iPadと単眼鏡の両方を使いながら仲間と活発は話し合いを行っていた。

今年の取り組みは、今まで叶わなかった検定受験に挑戦できたり、自助具の使い方が広がったりと、Aにとって「やった!できた!」と実感できる内容になった。しかし、今後、進路の取組など、新しいことに挑戦していく上で、思うように進まないことや失敗することもあると思われる。例え、挑戦したことが計画通り進まなかったときにも、自分にはいくつもの選択肢があることを忘れないで、前に進んで行ってほしい。